

高校生の体験入学行動に関する研究（2）

佐藤 公代

（教育心理学教室）

（平成16年6月7日受理）

Study on the Behaviors of the Entrance Experience in High School Students

Kimiyo SATOU

（問題と目的）

佐藤（2003）は、「平成14年度は、まずまずの成果を得たと考えられる。来年度にむけての反省点として、教育学、教育心理学、幼年教育専修生以外の教科の専修コースの学生にも出席してもらい、もっと幅広い話をしてもらいたいと考えている。」と、今後の課題を提起した。それに向けて、平成15年度における「高校生の体験入学行動」を観察する。

仮説は次の通りである。

- （1）昨年同様、「参加した動機」、「参加しての感想」、「グループ方式」、「話した内容」、「教育学部に入りたい度合い」については、学年、男女差に違いがあらわれるであろう。
- （2）「先輩達の態度について」の好感度は、相対するコミュニケーションの下手さや、敬語使いの下手さによって、100%とはいえないであろう。「たで食う虫も好きずき」であろう。

（方 法）

- 1) 期日：2003年8月8日
- 2) 対象者：高校生76人（3年生、男子10人、女子48人、2年生、男子2人、女子16人）
- 3) 手続き：2、3、4回生の学校教育教員養成課程の学生15人（男5人、女10人、教育学：2人、教育心理学1人、数学教育4人、家政教育2人、社会科教育1人、理科教育2人、発達障害2人、生活環境1人）

とグループごとに話し合ってもらった。高校生が聞きたい専修生のいるグループに自由に入り、それぞれ自由に話し合ってもらった。グループに入り込めず、高校生同士で話している場面もあったので、グループに入り込めない高校生のところには、大学生が行って話すようにした。各専修からだしてもらうように、今年の学生・入試委員会では要望したのであるが、学生の都合もあるのだろうか、やはり、かたよりができてしまった。来年度に向けては、必ず、各専修からだしてもらいたいものである。理由は、いろいろな専修の様子を高校生が聞きたがっているからである。話し合っている間、筆者は机間巡視し、最後に、昨年同様、筆者が作成した調査用紙（参加した動機、参加しての感想、グループ方式について、先輩達の態度について、話した内容について、教育学部に入学したい程度）に答えてもらった。

（結果と考察）

表1に結果を示す。

表1から、次のことが言える。

- （1）参加した動機としては、3年生男子は「先輩と話したかったから」が50%で一番多く、その理由として、「いろいろな話が聞けるし、経験が深そうだった。」二番目に多いのが、「生の声が聞けると思ったから」で20%、その理由として、「文章で見るとより、現役生の声の方が説得力があるから」、「貴重な情報が聞けると思ったから」である。3年生と2年生女子は「生の

表1 「教育学部生と話そう」に参加しての結果

上段：人，下段：（ ）%

		3年生	3年生	2年生	2年生
		男子	女子	男子	女子
参加した動機	先輩と話したか ったから	5 (50)	14 (29)	0 (0)	3 (19)
	ただ何となく	1(10)	5(10)	0(0)	4(25)
	面白そうだと思 ったから	1 (10)	8 (17)	1 (50)	5 (31)
参加しての感想	生の声が聞ける と思ったから	2 (20)	25 (52)	1 (50)	6 (38)
	楽しかった	9 (90)	36 (75)	1 (50)	12 (75)
	どちらでもない	1 (10)	11 (23)	0 (0)	4 (25)
グループ方式について	つまらなかった	0 (0)	1 (2)	1 (50)	0 (0)
	よかった	9 (90)	25 (52)	0 (0)	11 (69)
	どちらでもない	1(10)	21(44)	1(50)	5(31)
先輩達の態度について	悪かった	0(0)	2(4)	1(50)	0(0)
	親切でよかった	10 (100)	46 (96)	1 (50)	12 (75)
	どちらでもない	0 (0)	2 (4)	1 (50)	3 (19)
話した内容について	もっと深めたか った	2 (20)	15 (31)	1 (50)	3 (19)
	このくらいでよ い	8 (80)	27 (56)	0 (0)	11 (69)
	わからない	0(0)	6(13)	1(50)	2(12)
教育学部に入学したい程度	ぜひ入りたい	10 (100)	32 (67)	1 (50)	9 (56)
	少しは入りたい	0 (0)	12 (25)	0 (0)	3 (19)
	どちらでもない	0 (0)	4 (8)	1 (50)	2 (12.5)
	入りたくない	0(0)	0	0(0)	2(12.5)

(注) 合計が100%にならないところは、複数回答している場合である。

声が聞けると思ったから」がそれぞれ、52%、38%で一番多く、その理由として、「細かい所まで聞けそうだったので」、「パンフレットにはない声がきけると思った」、「国語専修と教育心理の違いが聞きたかったから」、「詳しいことが聞けそうだったので」(3年生)、「どんな感じが知りたかったから」(2年生)である。3年生女子で二番目に多いのが、「先輩と話したかったから」が、29%で、その理由として、「学部の特徴や取得できる資格について知りたかったから」である。2年生女子は、「面白そうだと思ったから」であるが二番目に多い。2年生の女子の「先輩と話したかったから」の理由として、「教育学部がどんなものか知りたかったから」、「先輩が一番自分たちに近い存在だから」、「資料で見ただけではわからない。生徒さんから見た学校のことなどを知りたいと思ったから」である。2年生の男子は「面白そうだと思ったから」と「生の声が聞けると思ったから」が一人ずついた。これほどまでに動機が明確なら、各専修ごとに学生が一人ずついてほしかったと思う。学生の都合もあるだろうが、アルバイトとして確保すれば必ず一人ずつは確保できると思われる。

- (2) 参加しての感想については、「楽しかった」が3年生男子(90%)、3年生女子(75%)、2年生女子(75%)で、その理由として、「大学のことがよくわかり、不安がなくなった」、「いろいろアドヴァイスなど聞けてためになった」、「わからない細かいところまで知ることができた」、「役にたつ話をたくさん聞いた」、「教育学部の学部の内容や対談がよかったから」、「大学生の生活がいろいろ聞けたから」(3年生男子)「詳しく話しが聞けてよくわかった」、「先生と学生の方の話が面白かった」、「先輩の話が聞けた」、「先輩達が親切に話してくれたから」、「とてもわかりやすく親切でした」 「すごくわかりやすくやさしかった」、「親切にわかりやすく、自分の必要とした答えをかえしてくれたのでよかった」、「細かく授業内容やとれる免許について教えてくれたから」、「いろいろな話が聞けたから」、「先輩が親切だった」、「プリントなどに書いていないことまで詳しく教えて下さったので」 「楽しかったので」、「先輩がいろいろ話しをしてくれたから」、「面白い話ができ」 「参加してよかった」(3年生女

子)、「いろいろ聞けてよかった」(2年生男子)、「いろいろ詳しく教えてもらえたから」、「話しやすい先輩だった」、「いろいろな話が聞けたから」、「良い席をとれたのでお兄さんにいっぱい質問できました」、「自分の聞きたかったことが聞けたから」、「あまり話せんかったけど面白い先輩でした」、「大学生活について参考になる話がたくさん聞けた」(2年生女子)。「どちらでもない」と「つまらなかった」については、どの学年、男女にも理由はなかった。

- (3) グループ方式については、3年生の男子は、「よかった」が90%で、理由としては、「必要なものが聞けるから」、「いろんな見学に来て人と話せたので」、「貴重な時間で過ごしやすかったから」、「自分の知りたいこと知れた」である。3年生の女性は、「よかった」が52%で、理由として、「少ない人数の方が話しやすかった」、「自分が考えていたこと以外のことを他の人が聞いていて参考になった」、「でも、みんなが質問するとなかなかまわってこない」、「同じ目的をもった人たちどおしだったので話もはなしやすかった」、「なんとなく」、「親密に話せた」、「聞きたいことが詳しく聞けた」である。2年生女子は、「よかった」が69%で、その理由として、「他の高校の人ともかかわれた」、「もう少し、声が聞こえやすい環境だったらもっとよかった」、「いろいろと聞けたから」、「少人数での話だったので、お兄さんとたくさん接することができました」、「じっくりといろいろなことについて話せた」である。

「どちらでもない」は、3年生の女子は、44%で、その理由として、「もうちょっと大学生の数をふやしてほしい」、「同じ道をめざしている人と話せてよかったが、個人の方がもっと聞きやすいなと思ったから」である。やはり、大学生の人数を専修ごとに確保したかった。

- (4) 先輩達の態度については、「親切でよかった」は、3年生の男子100%で、その理由は、「いい人でした」、「こまめに教えてもらえた」、「わかりやすく教えてくれた」、「とても親切に話してくれて、話がバラエティにとび、わかりやすかった」、「丁寧で話してわかりやすく説明したから」、「面白かった」である。3年生の女子は96%で、その理由として、「詳しく丁寧に説

明してくれたので」、「質問に丁寧に答えてくれた」、「いろいろな教育学以外のことも教えてくれてよかった」、「殆ど親切な方だったけど、一人男の人で、関係のない事ばっかののしってる奴がいてきもかった」、「笑顔でやさしそうで話しかけやすく、説明もわかりやすかったから」、「なんでも教えてくれたから」、「すごくいっぱい話してくれたから」、「緊張してたけどすごく親切でうれしかった」、「面白かった」である。2年生の男子が、50%で、その理由として、「方言ばかりで聞きづらかった」である。2年生の女子は、75%で、その理由として、「面白い先輩だった」、「わかりやすく話して下さったから」、「とっても優しいステキなお兄さんでした。わかりやすくて、楽しく話してくれたのですごくよかったです」である。

(5) 話した内容については、「このくらいでよい」と午前の部は、11時-12時30分、午後の部は13時30分-15時までの90分に満足していた。3年生男子は80%で、その理由として、「良く理解できたから」である。3年生女子は、「よくわかったから」「わかりやすかった」(2人)、である。2年生女子は69%で、その理由として、「もう充実しすぎでした」である。「もっと深めたかった」は、3年生男子20%で、その理由として、「もっといろんな先輩の話を知りたかった」である。3年生女子は、31%で、その理由として、「迷っていたのでもっと聞いて自分に合った方を確実にみつけたかったから」、「もっともっと語りたかった」である。2年生女子は、19%で、その理由として、「もっと大学について知りたいと思った」である。「わからない」は、3年生女子は13%で、その理由として、「話しかけづらかった」である。「何でも相談コーナー」にもちこんでもいいように、連絡を密にしておけばよかったと思う。

(6) 話した内容については、3年生男子は、「授業、部活、サークル」、「どんな授業か、入って良かった点、入試はどのようか、他の学部生はどんな感じか」、「就職について、教師以外にもインストラクターなど」、「男女の比率、受験勉強の時間、キャンパスライフ」、「沖縄、楽しい大学生活」、3年生女子は、「男女の割合、就職先、授業内容」、「学部の学習内容、先生について、卒業後のこと、生活についてなど」、「入試につ

いて、先生について、授業について、友達について」、「授業について、サークルについて、入試について」、「授業について、サークルについて」、「教育学でしかないこと」、「免許について、幼年教育について、実習について、単位について等」、「一ヶ月の生活費、取れる免許、勉強内容、実習」、「ふれあい実習について、授業について、障害児教育をとって、一番楽しかったことなど」、「教育心理と国語専修の違い、資格について、箱を使った心理学について<箱庭療法のこと>、授業について」、「学部について、試験のうけ方」、「何の免許がとれるか」、「免許について、サークルについて」、「専修について、サークル、入試など」、「いろいろな専修について、サークルについて」、「コース選択、将来のこと、友達、バイト、サークル、他いっぱい」、「大学の生活、|授業とかサークルとか|、免許」、「教育実習について」、2年生女子は、「教育学部内のことを詳しく教えてもらった」、「大学生活、大学のしくみ、先生になるために頑張っていること、苦労したこと、楽しかったこと」、「学校生活について、入試方法について」、「幼年教育の授業について」、「幼年教育で得られる資格、授業で何をやるか」、「大学全般のこと、高校のこと」、「大学生活の様子、授業の様子」である。今年は、わざわざ記入者と同じように列挙してみた。そうすることによって、高校生がどれだけの疑問を抱いているのかをさぐる手段にしようとした次第である。

(7) 教育学部に入学したい度合いについて、「ぜひ入りたい」は、3年生男子100%で、その理由として、「日本史の先生を目指しています」、「とても楽しそうな学部だなと思ったから」、「ぜひとも来年、教育学部に入りたいです」、「教員の免許状がとれるから。学校、学部の雰囲気もよかったから」、「楽しそうでした」である。3年生女子は、67%で、その理由として、「心理学が楽しそうだし、先生がとてもよかった」、「パンフレットに書かれている以外での資格が取ることができるとわかってよかった」、「小学校の先生になるのが夢だから」、「話を聞いていて自分のしたいことが楽しくできそうだと思ったから」、「先生になりたいから」、「生の声が聞けてすごくあこがれた」、「話を聞いてとても楽しそうだった」、「楽しそうだなと思った」であ

る。2年生男子は、50%で、その理由として、「子どもが好きだから」である。2年生女子は、56%で、その理由として、「これからもっともっと頑張ろうと思った」、「授業が面白そうだから」「今日の話聞いて絶対入りたくなりましたよ」、「夢をかなえるために、やっぱりこしかならなかったから」である。「どちらでもない」は、3年生女子は、8%で、その理由として、「今日のことで判断できるようなことがなかった」である。

- (8) 自由記述の欄において、3年生男子は「話を聞いて参考になりました。来てよかったと思う」、「がんばります」、「とてもいい大学だし、学部も十分で、とてもいい体験入学だった」、「最高でした」、3年生女子は、「考えていた所よりも教育心理学という興味もてる学部を見つけられて良かったです」「すごく親切にわかりやすく教えてくれました。わからなかったことがわかりました。励ましもくれたので頑張ろうと思いました」、「優しく教えて頂いて有り難うございました」「愛媛大はとても雰囲気がいいですね。何がなんでも絶対いきたいです」、「有り難うございました。ためになりました」、「有り難うございました」、「教育学部は楽しそう」「こんなに楽しいと思わなかった。来て良かった」、「音楽について聞きたかったけど、先輩がいなかったので体育を聞きました」、「音楽の人がいればもっとよかったけど、親切な人だったので勉強になりました」、「話が聞きづらかった」、2年生男子は、「はるばる夜行列車で来たかいありました」、「人数のことを考えて話し相手になる教育学部生を増やせばいいと思う」、2年生女子は、「先輩がおもしろおかしく、丁寧に教えてくれたので大学がもっと面白いところだと思えて楽しみになりました」、「いろいろ聞けていい勉強になりました。もし入ったら体育はなぎなたにしたいです」、「すごい話やすかったです。少人数だったのでやりやすかったし来てよかったと思いました。有り難うございました」、「親切にいろいろ話して下さって有り難うございました。とてもためになったし、楽しかったです。」、「とても楽しかったです」、「もう最高でした。有り難うございました」、「最初は、全然話せなかったけど中頃で自分の聞きたかったことが聞けてよかったです」というように、理由欄や自由欄に書い

た全員のを今年は丁寧に掲載した。理由は、書かれたものから高校生の内面をさぐり、よりよい体験入学の基礎データとし、できるだけたくさんの高校生に愛媛大学受験をめざしてほしいからである。

以上、(1) - (7) から、仮説(1)(2)は支持された。

今回も筆者による高校生の行動観察を言語的、非言語的行動から観察する限り、調査の回答と一致している。例えば、机間巡視の際の真剣なまなざしでの活発な話し合い、時間も忘れるくらいの勢いで話し込んでいる様子である。今年は、午前と午後行われたのであるが、午前は、約80名、午後は、台風の影響なのか、7名しか参加者がいなかった。

今度こそ、体験入学に参加した学生の合格者を抽出して、面接法、観察法、自然的実験で、行動観察と調査用紙に対する回答との整合性についての信頼性、妥当性を実証していきたいものである。

(引用文献)

佐藤公代 2003 高校生の体験入学行動に関する研究
愛媛大学教育学部紀要 教育科学 第50巻第1号
53-56

(注) 対象者の高校生の皆様、調査にご協力下さいまして、誠に有り難うございました。話し合いに協力して下さい下さった大学生の皆様にもお礼の言葉を述べたいと思います。